

# キュウリの栽培法

2011/10/10

## 植えつけの準備

よいキュウリを長い間収穫するには、肥切れのないよう順調に生育させることが大切である。そのためには深耕して堆肥を多く施すとともに、元肥には長持ちする肥料を使って、植えつけ20日くらい前にうね全体に施し土とよく混和する。施肥は初期に根の伸長を促し、茎葉を押え気味にガッチリと育てる配分がよい。うね幅は90～110cmを標準とし、やや高うねを作る。

## 植えつけ

普通の支柱栽培では、最低地温が15℃以上になり晩霜の心配がなくなった時期に行なう。温暖な日を選び、根を痛めぬよう苗の株元をやや高く植える。仮支柱を立てて誘引し、風雨で動かないようにする。株間は1本仕立で45～60cm、(2本仕立で60～75cm、3本仕立で70～90cm)が標準である。

## 植えつけ後の手入れ

現在主流の白イボ系の仕立て方は、一般に親ヅルと子ヅルの2～3本仕

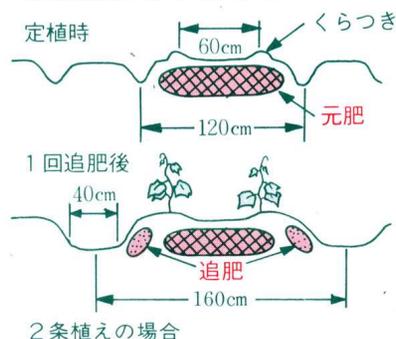
立てか、親ヅル1本仕立てにする。、敷きワラは土の温度を下げ、乾燥を防ぐとともに、雨で土がはね上がっておこる病気の発生を回避するために必要で、梅雨明けまでは株元付近に薄く、梅雨明け後は土が見えなくなるくらい厚く広くする。順調に生育させるには、いつも土の湿りが適当で変化が少ないようにすることである。特に乾燥しやすい場合や夏の乾燥期には朝夕の涼しい間に水やりをする。乾燥してから急に多くの水を与えると根を痛めるので、乾ききらぬ内にこまめに水やりをすること。追肥は生育をみながら施す。1回目の追肥は最初の雌花が咲いた時、その後は7～10日(収穫最盛期は5～7日)ごとに施用を続ける。

## 収穫

収穫初期や不良環境下では80g、最盛期は100gを目安に収穫する。樹勢や着果状態をみながら若どりして収穫を長くする。収穫は早朝、最盛期は夕方にも、果実の水々しさを失わないこと。

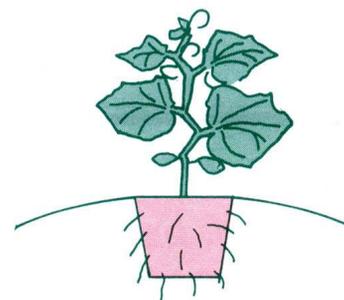
日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店  
※一部又は全部の引用を禁止いたします

## 1. 施肥法とうね作り



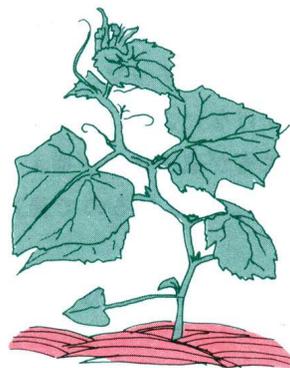
リン酸全量と、チツソ、カリの半分を元肥とし、残りは追肥として最初の雌花の開花時に才1回目をその後7～10日おきに分施する。元肥はできるだけ深層まで施す。

## 2. 植えつけ



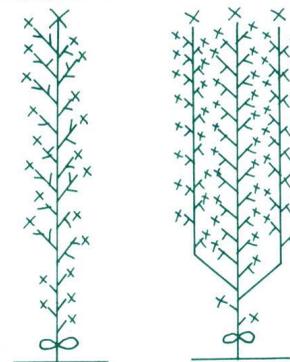
根鉢がくずれないように注意して植える。植えつけの深さは、根鉢がちょうど埋まるか、いく分出るくらいとする。

## 3. 敷きワラか敷き草



乾燥防止、病害防止、雑草防止の上からも敷きワラか敷き草は励行する。

## 4. 整技法



- 主枝の1本仕立て、主枝は20～22節摘芯子づるは1～2節の摘芯がよい。
- 主枝、子づるの3本仕立て、側枝は1葉残しての摘芯がよい。